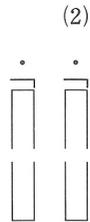


兵庫・入佐川遺跡 (第一八号)

- 1 所在地 兵庫県出石郡出石町宮内
- 2 調査期間 第一次調査 一九九二年(平4)五月～十二月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
- 4 調査担当者 大平 茂・村上泰樹・柏原正民
- 5 遺跡の種類 水田跡・河道跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代～近世
- 7 木簡の積文・内容
入佐川遺跡は兵庫県の北部を流れる出石川の支流、入佐川流域で確認された遺跡で、すでに本誌第一八号で第一次調査、及び第四次調査(一九九五年度調査)で出土した木簡を紹介している。
今回報告する木簡は、一九九二年度調査資料の整理作業中に新たに発見されたものである。既報告のように当調査では弥生時代～古墳時代の河道や水田、奈良時代～近世までの河道や溝などが検出されている。木簡は近世の溝および河道から出土しており、陶磁器や漆碗などが伴出している。
- 8 木簡の積文・内容

(1) 匁カ

(130)×24×4 081



180×40×3 061

(1)は、下端に向かって細く削った板状材である。上半は欠損し亀裂が生じ、下端側も失われている。上端近くの一文字はやや墨も残っているが、その下は痕跡程度である。近世の溝より出土した。
(2)は、薄い短冊形の板状材の長辺に抉りを入れたもので、両端中央に各一カ所の目釘孔があり、箱物の一部と推定される。両面に墨書が認められるが、文字は判読できない。近世の河道より出土した。
なお、木簡の積読については奈良国立文化財研究所の方々のご教示を得た。
(藤田 淳)

